



暑い日が続いておりますが、皆様はいかがお過ごしでしょうか。私は、相変わらず様々な行事等で西へ東へと、県内のみなならず各地へ走り回っております。まだまだ暑い日が続きますので、熱中症対策等お忘れなく、くれぐれもお自愛ください。

滋賀県議会議員

# 田中松太郎

プロフィール ■ 1972年 滋賀県甲賀市生まれ ■ 2015年4月 滋賀県議会議員初当選 ■ 県民生活・土木交通常任委員会、総合交通・防災対策特別委員会



県政レポート  
2016年8月 Vol.5

田中松太郎 事務所 甲賀市水口町北脇436-1 TEL.0748-63-5340/FAX.0748-63-5341

田中松太郎 検索

平成30年  
春より

## JR草津線の全駅に ICOCA改札機設置!!

昨年度の滋賀県議会の6月定例会議及び2月定例会議において、二度にわたり私が一般質問で取り上げましたJR草津線貴生川駅以東のICOCA改札機未設置駅への対応について、ようやく設置が決定いたしました。

8月1日に滋賀県公館にてJR西日本京都支社の岩崎支社長、三日月滋賀県知事、中嶋甲賀市長が草津線甲南駅、柘植駅のICOCAエリア拡大の記者会見を行い、その中で甲南駅、寺庄駅、甲賀駅、油日駅、柘植駅でICOCAをはじめとする交通系ICカードが平成30年春より利用可能となることが発表されました。

また同時に、甲賀市より忍者のデザインオリジナルICOCAが発表されました。これは平成28年度と平成29年度に計3万枚のICOCAを市民に配布するもので、平成28年度については子育て世帯や生活困窮世帯などに対し、平成29年春ごろに配布される予定です。

ICOCA改札機設置に向け、尽力いただきました関係者の皆様方、署名活動にご協力いただきました地域の皆様方に心より感謝申し上げます。



### 6月定例会議 一般質問

#### 医療的ケア児への 対応について

新生児医療の発達により、以前なら出産直後に亡くなっていったケースでも助かることが多くなり、新生児死亡率が低くなった一方、痰の吸引や経管栄養等の医療的ケアを必要とする障害児医療的ケア児が増えています。しかし、病院のNICU新生児集中治療室を出た後は在宅医療が基本となり、特に医療的ケアが必要な未就学児を受け入れられる施設は少なく、医療的ケア児や看護に追われる家族を助ける法律もありませんでした。

これらの状況を改善するべく超党派の国会議員で立ち上げられた永田町こどもみらい会議の働きかけにより、5月25日の第190回通常国会において、障害者の日常生活及び社会生活を総合的に支援するための法律及び児童福祉法の一部を改正する法律が成立、医療的ケア児の支援体制の整備が盛り込まれ、児童福祉法第56条の6第

2項の規定が6月3日に公布、同日施行されました。

この法律の成立に先立ち、昨年の11月に甲賀市内の複数の保育園にて医療的ケア児の受け入れの現状を視察しました。各園における細やかな対応と危機管理体制に感心させていただいた一方で、事故防止に向け様々な取り組みをされているものの、命の危険が常に伴う現場は他の保育園とは明らかに異なるものでした。

医療機関でない保育園での医療的ケア児の受け入れには、園児の状況により受け入れの可否、また対応を検討していく必要があり、これらを市町において独自に判断をされると福祉サービスの地域格差が生じ、在宅療養以外の選択肢がなくなる医療的ケア児が出てくる可能性もあります。

これまで現場で培われたノウハウを現場や各市町にとどめておくのではなく、県内各市町で共有して、より質の高い安全な受け入れ体制を構築し、すべての子ども達が安心して生きていくことのできる社会を目指すべきだと考えます。以上を踏まえ、県としての取り組みや考えをお伺いします。

**Q** 改正児童福祉法に医療的ケア児への支援が盛り込まれたことについて

**知事** 小児保健医療センター療育部にて医療的ケア児に対する発達支援や個別リハビリ等に取り組む他、関係機関の連携による公私協働の実践を広くいづくことで医療的ケア児の地域生活が充実したものになると考えます。

また、滋賀県障害者自立支援協議会等の枠組を活用し、医療的ケア児が適切な支援を受けられるよう関係者による協議の場を設け、障害のあるなしに関わらず、すべての子どもが健やかに成長し、心身ともに健全に育てられる環境づくりができるよう進めます。

**病院事業庁長** 必要な人材育成、機器整備システム構築等を鋭意すすめていきます。

**Q** 新生児の死亡率減少に向けた取り組みと推移、NICUにおける入院児の状況について

**健康医療福祉部長** 出生千人に対する新生児死亡率は、平成20年は全国平均対して滋賀県はやや高い傾向にあったことから、周産期医療施設における機器の整備や周産期死亡症例の検討、周産期医療従事者の研修等に取り組む、平成26年には、全国平均0.9に対して滋賀県は0.8と改善傾向にあります。

一方、低出生体重児および超低出生体重児は増加傾向にあり、超低出生体重児の多くは、先天性の重複疾患を抱えることがあり、NICUの入院患者数は増加しています。平成26年の入院児は年間9,211人、人工呼吸管理症例は2,144人で高度医療が必要な子どもが多くいます。

**Q** NICUの長期入院児の受入れ体制と在宅医療への移行に向けた取り組みについて

**健康医療福祉部長** 平成25年10月から県立小児保健医療センターを長期入院児を受け入れる後方支援病院として位置づけ、NICU病床の効率的運用と在宅医療への円滑な移行を行う体制づくりにより、平成27年度からは小児在宅療養支援事業に取り組みしており、小児在宅医療を担う医師や看護師を育成するための実技研修会などを開催しています。

在宅療養での負担を軽減するため、保護者の要請に応じて、日帰りや1泊2日で受け入れる「中一時支援事業」や数日間受け入れる「レスパイト入院」など、医療的ケアが必要な小児が安心して在宅療養できるよう支援体制づくりを推進します。

**Q** 今年度の県内保育所における医療的ケア児の受入と待機状況、在宅の医療的ケア児の状況について

**病院事業庁長** 保育所・認定こども園における酸素吸入や喀痰吸引、経管栄養などの医療的ケアの必要な児童の受入れ数は、県内10市で19人です(4/1現在)。医療的ケア児の待機は、酸素吸入が必要な児童1人、看護師の確保ができていないためです。保育所等の利用申込みについては把握していませんが、保健センターや市町の障害福祉主管課で必要なケア等についての指導・支援を行っています。

**Q** 保育所への看護師の配置に対する支援策について

**健康医療福祉部長** 障害の程度に応じて1対1や2対1、あるいは3対1で、保育士や看護師を加配しています。保育所・認定こども園における看護師の配置状況は、10市72名です(4/1現在)。保育所で体調不良となった児童を一時的に預かる病児保育事業を実施する場合は、看護師配置への支援制度があり、本年度は5市12施設に対して支援を予定しています。

**Q** 医療的ケア児の保育所への受入れのノウハウ共有や保育所受入れのできない児童の通所サービスの充実について

**健康医療福祉部長** 県保育協議会が行う研修会をはじめとする様々な場でノウハウ等の情報提供を行い、保育所等での医療的ケア児の受け入れがさらに進むよう努めます。

保育所では受け入れが難しい医療的ケア児については、通所による療育支援やその家族に対する支援を行う児童発達支援事業などのサービスを利用しやすくできないかなど、県障害児地域療育連絡協議会等と意見交換を行いながら考えていきます。

**Q** 医療的ケア児が18歳を迎えるまで、県として切れ目のない支援が必要と考えるか?

**健康医療福祉部長** 医療的ケアが必要な児童を診察できる医師や、ケアできる看護師の育成に取り組むとともに、障害者自立支援協議会等の場を活用して、訪問看護事業者等医療的ケアのできる機関と児童発達支援事業所、放課後デイサービス事業所、また、学校との連携を進め、児童から成人まで医療的ケアが必要な方への切れ目のない支援の実施に向けて取り組みます。

7/21

県民生活・土木交通常任委員会



◆瀬田漕艇倶楽部 ボート競技を通じた取り組みを視察



◆県立琵琶湖漕艇場 東京オリンピックに向けた県民参画委員会



◆江若交通株式会社 地域におけるバス路線の現状、公共交通事業者としての取り組み、デマンド型乗合タクシーの実証運行を視察



◆京都大学防災研究所 日本有数の防災学研究機関で自治体の防災対策について視察



◆守山市 自転車の普及に取り組む「輪の国びわ湖推進協議会」の皆さんとの県民参画委員会

7/27

総合交通・防災対策特別委員会